

道

2024・1・24

通信 No 1766

1月24日(水) 6時半～(岡野中学) 小坂先生 二宮先生 3部

※3時～ **千ラシ検討委員会 県サポ**

1月28日(日) 西区合唱祭 (県立音楽堂) 清水先生 小坂先生

※集合時間 **11時15分**

1月31日(水) 6時半～(岡野中学) 小坂先生 二宮先生 3部

※3時～**企画選曲委員会 県サポ**



雲紋竹

私の「バイカル湖のほとり」

「バイカル湖のほとり」を歌うとき私には三つの情景が浮かぶ。

一つ目は、題名通りの「バイカル湖のほとり」。

合唱団の2回目のロシア演奏旅行で初めてバイカル湖のほとりに立った。

意外に感激は薄かった。確かに広い！ 対岸は遙か彼方だが琵琶湖の47倍と言われてもピンとこない。

この旅行で見たのはバイカル湖のほんの一部に過ぎなかった。

二つ目は、その翌年上空から眺めた「バイカル湖」の風景。1時間経過してもまだ眼下に見える湖に「これこそバイカル湖」と感動した。周囲はすべて深い森、青く光る湖は「シベリアの瞳」そのものだった。

三つ目は、歌詞から思い描く人である。ご本人には大変失礼なことだが、この歌を歌うと「さすらい人」が白馬村在住の元団長小林英雄さんに思えてくる。

特に3、4、5番の歌詞は演劇青年だったと言う小林さんの「さすらい人」の舞台を勝手に作り上げて歌っている。(菅野明子)

～暗譜で歌う～

「暗譜で歌う」こんなことを基本方針で明文化している合唱団は少ないと思う。

先輩から聞いた話だが、ある年の定演で、演奏の最中に楽譜をばらまくということがあって、その反省から定められたという。

話は変わるが、フィギュアスケートの鍵山選手はコーチから「完璧を狙うのでなくすばらしいと言われる演技を」と言われたとのこと。

私たちの合唱団も、「暗譜はすばらしい」といつもほめられる(では、演奏は？ などとひがまない)。記憶力も減退し年々大変さが増すが、努力の結果であるし、何よりも楽譜や指揮者に歌って聞かせるのではなく、お客様に歌を届けるには暗譜は基本と思う。

運用面では柔軟に考えても良いが「目標」は変えないほうが良いと思う。(石田 勉)